

# 「予備検査の標準化」は安全のため?!

## 「マニュアル」ありきのやり方で本当に大丈夫ですか?!

9月の総点呼の所長訓示でも「予備検査を手順通りにやっていただけるようになりまし  
た、これは品質管理と品質向上と安全のためにやっているの理解をお願いしたい」とい  
う話がされ、相変わらず作業中の社員に対して「厳格な作業点検」が行われています。し  
かし、「基本」は大切でしょうが度を過ぎるのはどうでしょうか。ある社員は予備検査の  
時に軸箱の油量を見て、その続きでライトの灯りが研磨子に当たっただけで管理者から  
「今は研磨子を見る時間ではない」と指摘を受けるなど「こんな細かいことまで言うのか」  
ということが多く見られます。「マニュアル通りに!」「決められたところだけ!」とい  
うことで同じような動作を淡々と繰り返すというのは「車両の検修屋」としてはどの  
のでしょうか。「想像力を働かせて電車全体を見る」ということがいわゆる「安全」につな  
がるのではないのでしょうか。

少し前に全般検査を出場して1回目の交番検査で、予備検査中に軸箱の油量を見た時に  
エア漏れ音を聞いて、モーターに風を送るたわみ風道の奥側が浮いてエアが漏れているの  
を手をかざして確認し、加圧中に浜松工場の社員にも確認してもらい、機器検査で手直し  
の処置をしたということがありました。マニュアルでは見るようになっていないから「素  
通り」すればよかったですでしょうか。

最近、作業中に「B13A 圧力調整弁のエア漏れ」が多く発生して、交換作業も頻繁に  
行っています。その作業のための「人や時間」が付いているわけではありませんが、その  
際も社員間で連絡をとり合い作業を回しています。

「マニュアル通り」だけで本当にいいんですか?!

社員の皆さん! どう思われますか?!